

Association between the severity of chronic spontaneous urticaria and sleep-disordered breathing

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 永山, 貴紗子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002864

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2577 号

Association between the severity of chronic spontaneous urticaria and sleep-disordered breathing

特発性慢性蕁麻疹と睡眠関連呼吸障害の重症度の関連について

永山 貴紗子 (ながやま きさこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、睡眠時無呼吸症候群 (Sleep-disordered breathing:SDB) と慢性特発性蕁麻疹 (Chronic spontaneous urticaria:CSU) の関連を検討した論文である。2018年4月1日から10月31日までに国立病院機構相模原病院アレルギー科・皮膚科を受診した全CSU患者の中で同意を得られた患者を対象に、自宅で検査施設外睡眠検査 (out-of-center sleep testing:OCST) を施行し、解析を行った。CSUの重症度評価はUrticaria activity score 7(UAS7)を用い、Apnea-hypopnea index(AHI)との相関を調査した。またOCSTにてAHI \geq 5であった患者に関しては終夜ポリソムノグラフィーを行い、必要な場合にはSDBに対して治療を開始した。SDB治療が開始された患者は、治療開始1か月後にCSUの状態をUAS7を用いて再評価した。全37人のうち、19人が症状なし～軽症蕁麻疹 (UAS7 \leq 15)、18人が中等症以上の蕁麻疹 (UAS7 \geq 16) だった。後者ではBMI・AHIともに有意に高値であった (BMI= 21.0 vs. 27.3 kg/m², p = 0.02; pAHI = 17.5 vs. 4.2, p <0.01)。また中等症以上のSDB (pAHI \geq 15) は、BMIで調整した後も有意に中等症以上の蕁麻疹と関連していた (aOR = 21.7 [95% CI, 1.65-285])。またSDB治療を開始した4人に関しては、全員が1か月後にCSUの状態の改善を認めた (p = 0.02)。以上より、本研究ではBMIとは無関係にSDBとCSUの間に重症度相関を認めた。またSDBへの治療介入によりCSU症状の改善を認め、SDB治療がCSU治療の選択肢となりうる可能性を始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。